

辰野千壽教育賞では教育実践論文を募集しています

理事兼副学長（辰野千壽教育賞実行委員長） 中山 勘次郎

毎年数多くの斬新で意欲的な教育実践論文を応募いただいている辰野千壽教育賞ですが、本年度の募集を開始しましたので、ご案内いたします。

本学初代学長・辰野千壽先生のお名前を冠したこの賞は、初等中等教育諸学校等の教育現場における特色ある実践研究及び先進的取組を讃え、更なる発展に向け積極的に支援することを目的として、創立 30 周年を記念して創設され、以来今回で 17 回を数えます。最近では、「更なる発展に向け積極的に支援する」の部分を取りわけ重視して「奨励賞」を追加し、教員人生の集大成としての研究論文だけでなく、若手の先生方の、多少荒削りでも将来の発展が見込まれる研究論文も、積極的に受賞対象としています。

募集対象を本学関係者に限定していませんので、多彩な経歴の先生方が全国から応募され、そのこと自体は喜ばしいことなのですが、反面、本学修了生・卒業生からの応募が比較的少なく、少々寂しい思いもしているところです。是非みなさんからも、とっておきの、生きのいい実践をまとめ、ご応募いただければと願っております。応募の際のヒントになればと思い、選考過程で委員の間で話題になったことなどをまとめた「全体講評」を、一昨年分から HP に掲載しています。受賞作品に対する選考会議議長の講評とともに、一読いただければ幸いです。

また、以前は実践を繰り返す中で、毎年のようにテーマを絞り込みながら応募される方が一定数いたのですが、最近ほとんどが一度きりの応募で終わっており、これも残念なところです。「全体講評」にも書きましたが、選考の過程では、「面白い実践だが一度の実践報告だけでは評価が難しい、もう少し展開・発展を見守りたい」というような実践もけっこうありますので、実践を深め幅を広げながら、継続的に応募していただくことも、お勧めしたいところです。

本年度の締切は 7 月 17 日です。修了生・卒業生のみなさんからのご応募を、心よりお待ちしております。お知り合いの先生方にもお声がけをお願いします。

さて、せっかくの機会ですので、辰野千壽先生のエピソードを一つ紹介しましょう。辰野先生は現役の頃、ご専門である学習心理学の見地から、様々な教育系・育児系の一般向け雑誌に寄稿されていて、私の恩師によれば、一時期「どの雑誌を開いても先生のお名前が出てくる」ほどの<売れっ子>だったそうです。辰野先生のすごいところは、これも私の恩師からの受け売りですが、なんと編集者が原稿を依頼すると、すぐその場で、あるいは遅くとも翌日には原稿が出来てくるのだそうです。なぜそんな芸当ができるかというと、先生はふだんから、その時々にご自身でテーマを決め、いろいろな原稿を書きためていたのだそうです。それで、依頼を受けるとそれに合った原稿を探し出し、字数を調整する程

度ですぐに手渡せたというわけです。各社の編集者もそのことを熟知していて、執筆が遅い人がいて次号に穴が空きそうになると、あわてて辰野先生のところに駆け込んでくるのだとか。

原稿を書きためて…と簡単に言いましたが、各社の多種多様な依頼内容に即座に応えられるほどのストックをお持ちであったというのは、さすがに格が違います。もちろんその背後には、日頃から様々な話題に関心を持って思索を巡らし、関連する研究論文を読み込んで整理するという膨大な作業があつてのことですので、その旺盛な向学心には驚かされるばかりです。

また、売れっ子になると忙しいからか、研究から離れて個人的な意見や感想レベルの内容を書き散らす人も少なくない中で、先生はあくまで研究論文を下敷きにして、与えられたテーマについてわかりやすく解説するという執筆スタイルを通していらっしゃいました。じつは私は、辰野先生が学長退任直前の短い間、本学で先生とご一緒したのですが、ある日突然学長室に呼び出しがかけられました。当時一介の助手であった私に、学長から直々に声がかかるはずもなく、きっと何かヤバいことをしでかしたにちがいないと、お叱り覚悟で学長室に出向いたのでした。すると先生はニコニコしながら、当時心理学にも導入されはじめていた多変量解析の一手法の読み取り方について、「論文を読んでもわからないから教えてくれないか」と、私を呼んだ理由を教えてくださいました。私はホッとすると同時に、先生ほどのお年と役職になられても、海外の最先端の研究動向に敏感に目を配り、必要とあらば相手が助手であろうと教えを請う、その研究への熱意と姿勢にとても感銘を受けたのでした。出していただいたお茶ときんつば（来客待遇ですね！）を頬張りながら、テーブルいっぱい広げられた資料を前に、先生からの質問攻めに一つひとつ答え、先生に最後ひとこと「これでこの論文が理解できました」と言っていたのが、懐かしく思い出されます。

そんな衰えぬ向学心の持ち主であった辰野先生のお名前を冠したこの教育賞、これからもみなさんと一緒に、ますます盛り立てていきたいと願わずにはられません。ご協力をよろしくお願いいたします。

2024年5月2日

■ 辰野千壽教育賞のページ：

<https://www.juen.ac.jp/050about/050approach/030relation/tatsuno.html>